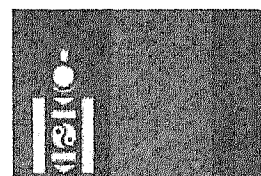


# モンゴルってどんなところ？



Mongolia

増永 文子

千葉県

柏市立柏第三小学校

- 担当教科：全教科
- 実践教科：国語、学活、外国語活動
- 時間数：6時間
- 対象：小学1年生
- 対象人数：32名

## 〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・モンゴルの話をきっかけにして、「もっと知りたい」という意欲・知的好奇心を育てる。
- ・国籍などに関わらず、広く「他者とかがわりたい」という気持ちを育てる。

## 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	<b>【『スーホの白い馬』】</b> モンゴルを舞台にした絵本を読むことで、モンゴルという国を知るきっかけとする。 (国語)	・『スーホの白い馬』の読み聞かせを聞いて、感想を書く。 ・モンゴルという国があることを知る。 ・地球儀でモンゴルの位置を確かめる。 ・モンゴルの国旗を知る。	・絵本 『スーホの白い馬』 ・地球儀 ・国旗
2	<b>【モンゴルのおべんぎょう】</b> モンゴルの子ども達はどのような勉強をしているのか知る。 (学活)	・モンゴルの文字表や教科書を見る。 ・モンゴルの教科書の問題を解く。 ・モンゴルの文字と日本の文字を比べる。	・モンゴル文字一覧 ・教科書 ・絵本
3	<b>【モンゴルのことば】</b> 数字や動物の言い方など、モンゴル語のことばを知る。 (学活)	・モンゴル語での数字・月・曜日・あいさつの言い方を知る。 ・カタカナを見ながら発音してみる。 ・モンゴル語での動物の言い方を知る。(モンゴルの十二支)	・絵本 ・プリント ・動物の写真 ・絵葉書
4	<b>【どうぶつの名まえ 英語では?】</b> 動物の名前や、鳴き声を英語で言ってみる。 (外国語活動)	・動物の名前や鳴き声の英語での言い方を知り、言ってみる。 ・モンゴル語での言い方と比べる。	・動物の絵カード
5	<b>【みぶりでつたえる】</b> 説明文を読んで、言葉だけでなく身振りでも気持ちや考えを伝えられることを知る。 (国語)	・教科書の説明文を聞く。 ・「みぶり」とは何か話し合う。 ・例示されている身振りをやってみる。	
6	<b>【しゃしんからなにがわかる?】</b> 文字がなくても写真から読み取れることを発表しあう。 (学級活動)	・写真を見て気がつくこと・考えたことを書く。どこの写真を予想する。 ・グループごとに発表する。 ・活動の感想やもっと知りたいことを書く	・モンゴルの写真 4 枚

### 【3】授業の詳細

#### 1 次限目：【『スーホの白い馬』】

国語の「本のせかいをたのしもう」という単元の中の『どくしょのひろば「おはなしどうぶつえん」をつくろう』の一環として行った。内容は動物が出てくる本を読んで紹介しあうというものである。「馬の出てくるお話を紹介するよ」といって読み聞かせを始めた。

読んだ『スーホの白い馬』は、馬・羊飼ひ・競馬・馬頭琴などモンゴルを象徴するようなものが沢山登場し、モンゴルを知るきっかけには大変優れているといえる。絵本の中にはゲルやデルなども載っていたのがよかった。ただ、予備知識のないままに物語を聞いたので、少しわかりにくかったらと思う。1年生の読み物としては、文の量が多いが、魅力的な絵とストーリーに助けられ、皆真剣に最後まで聞くことができた。

読み聞かせの後は、モンゴルの国旗を紹介した。クラスには「この旗知ってるよ。首都はウランバートル！」という国旗博士がおり驚いた。音楽で「ひのまる」という歌を学習したことを振り返り、他の国にも決まった旗があることを話した。また地球儀でモンゴルの場所も確認した。児童からは「日本と近いね」という声が聞かれた。

#### 2 時限目：【モンゴルのおべんきょう】

夏休み前に、カナダに転校した児童からクラスのみんな宛に手紙が届いた。そこには、カナダの町の様子や学校のこと、自然環境などが1年生なりに上手に表現されていた。学習内容についても記されており、日本の児童が既に学習した足し算を習っているとのことであった。授業の冒頭に、彼女からの手紙を読み上げ、地球儀でカナダの場所を示した。

「Mちゃんは元気になっているかな。今何をしているところでしょうね」と問うと、「今は夜だから寝ているんじゃない？」との声が上がった。予想していたよりも、時差について知っている児童が多いことに驚いた。友達が外国に住んでいることで、自然と他の国のことへの関心も高まっていたように思う。

手紙の内容を振り返り、「では、スーホの住むモンゴルの子ども達はどんな勉強をしているかな。みんなもやってみようか」と言うと、ほとんどの子が「出来ないよ」「難しそう」「言葉がわからないもん」と自信のなさそうな声を上げていたが、モンゴルの教科書の問題を見た児童の表情は、明るくなっていった。「これ、こうやるんじゃない？」と隣の席の友達に話したり、早速「やってみていいですか」という子もいた。全体で、何の問題かを確認しながら問題を解いていった。

後半はモンゴルの文字の表(日本で言う50音表)や、教科書・絵本などを見せた。こちらが問いかける前に、気がついたことを発言する児童が多かった。

#### 児童の感想

- ・プリントは、最初は難しかったけどよく考えるとわかりました。
- ・モンゴルのあいうえおが、難しいけどたのしい。
- ・数字は日本とっしょなんだな。
- ・モンゴル語はわからないけど、絵でヒントになりました。
- ・すいかやとうもろこしがモンゴルにもあるとは知りませんでした。
- ・教科書に「おおきなかぶ」がのっていました。
- ・モンゴル語とひらがなをくらべたら違うところがたくさんあった。
- ・英語にモンゴル語が混ざっていた。



【モンゴルの算数の教科書】

- (左) いくつといくつ
- (右上) かぞえてつなごう
- (右下) いくつあるかな色ぬり

3 時限目：【モンゴルのことば】

前時の感想の中に「モンゴルのことばをもっと知りたい」というものが多かったので、児童に身近なものをモンゴル語で紹介した。

一学期の外国語活動では数字をテーマにしたので、日本語・英語・モンゴル語で0から10まで数えた。カタカナにもだいぶ慣れてきたので、初めて読むものでもゆっくりならば一緒に言うてみる事ができた。言い慣れないのでつかえながらだったが、「外国語」を体験するいい機会となった。クラスの中で数名は英語を習っているが、普段の外国語活動においては、その子らがどうしても目立ってしまう傾向にあったが、今回は皆同じレベルで取り組めたのがよかった。

続けて、月や曜日、簡単なあいさつ（こんにちは、ありがとう、お誕生日おめでとう！）の言い方や、子ども達が暗記している十二支の言い方にもチャレンジした。動物の写真の絵葉書も見せた。

児童の感想

- ・もっとモンゴル語を知りたい。
- ・中国の言葉や、アメリカの言葉も知りたいです。
- ・モンゴルに行ってモンゴル語を話したいです。
- ・モンゴルの人と友達になりたいです。
- ・桜はサコラでなんか日本語と似ています。
- ・モンゴルの動物園に行って、動物を見たいです。
- ・水族館にも行って魚を見たいです。
- ・モンゴル語っておぼえにくいと思いました。
- ・ヤギとラクダの言い方がおもしろかったです。
- ・犬や牛のモンゴル語や、曜日や数字も知ってうれしかった。
- ・いろんな読み方があって、日本と全然ちがうんだなと思いました。
- ・馬はモリというので、私はびっくりしました。私は今年なので、もしも私がモンゴルに行って言いたいときはモリといわなきゃいけないなと思いました。



【モンゴルの十二支】

4 時限目：【どうぶつの名まえ 英語では？】

低学年では学期に2回ほど行う「外国語活動」において、英語指導助手（ALT）と共にチームティーチングで行う。

今回は動物をテーマに活動した。「ALTの先生にモンゴル語の言い方を教えてあげようね」と言うと、児童らは、にこにこ嬉しそうに、活動を楽しみにしている様子であった。

- ・うたであいさつ Hello song
- ・動物の呼び方を知る Cat, Dog, Mouse, Rabbit, Monkey, Lion, Koala, Tiger, Panda, Kangaroo, Cow
- ・好きな動物をALTに話す I like ~.
- ・動物の鳴き声を知る
- ・動物に変身！ゲーム<ALTの言う動物のジェスチャーをする>
- ・動物カルタ<動物の名前や鳴き声を聞いて、絵にタッチする>
- ・絵本の読み聞かせを聞く 『From Head to Toe』
- ・歌であいさつ Good-bye song

5 時限目：【みぶりでつたえる】

国語の単元「みんなにつたえよう」の中にある説明文である。『みぶりでつたえる』を読んで、わかりやすい伝え方を考えることが学習のめあてであるが、これまで言葉を介したコミュニケーションをテーマに授業を展開してきたために、「日本語以外の言葉は難しい・わからない」という思いが大きくなりつつあった。言葉がなくてもわかりあえることを伝えたくてこの授業を設定した。

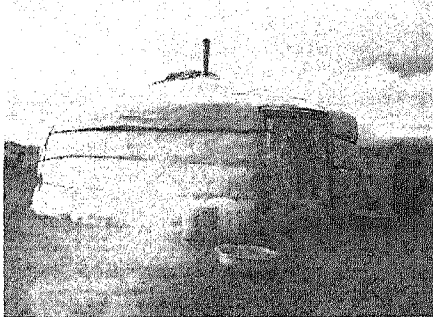
本文の中には、手を振って友達を呼ぶ・首の動きで「はい」「いいえ」「よくわからない」を示すなど、身振りが言葉の代わりにすることが書かれている。また後半部分では、嬉しいときに両手を挙げたり、困ったときに腕を組んだりすることで、気持ちは身振りで表すほうがよく伝わるということも書いてある。実際に体を動かしながら、「これなら日本語のわからない人にもわかるね」と、ボディランゲージの有効性を確認しあうことができた。

6 時限目：【しゃしんからなにがわかる？】

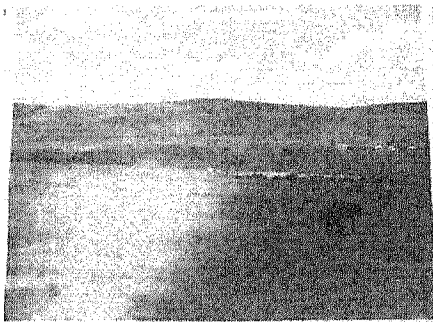
モンゴルの写真を見せて、①どこの写真か ②

写っているもの ③自分で考えたこと を書かせた。グループワークにし、友達と話しながら書くことにした。

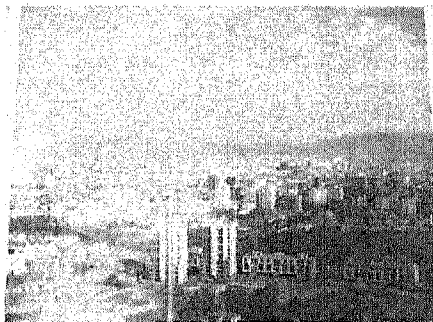
【見せた写真】



A: 【ゲルの外観】



B: 【広い空、広大な草原、ゲル、馬】



C: 【丘の上から撮影した街の中心部（ビル群・遠くに山並みが見える）】



D: 【バスの車内から撮影した路上の牛】

児童の感想

- A ・写真じゃなくて、本当のテントが見たいです。  
 ・『スーホの白い馬』の家と似てる家がありました。

- ・モンゴルの家の犬が日本と同じみたいです。
- B ・馬が何頭いるか考えました。
- C ・日本の観覧車の上から見た写真みたいでした。
- D ・牛が道路にいるなんてすごい。  
 ・全部違う国の写真だと思った。  
 ・モンゴルっていろんなところがあるんだなと思いました。

〔4〕授業実践を終えて

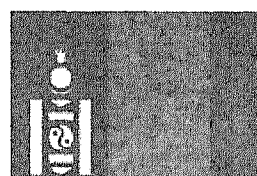
「知ること」「関わること」への積極性の育ちを願いながら進めてきた。「外国に行ってもっといろんなことを知ったら、外国語をしゃべれるかな」「モンゴルってどんな人が住んでるの」などの言葉を沢山聞いたことは嬉しい収穫であった。授業の最後を書くシートには①見たこと・きいたこと、②じぶんでかんがえたこと、③もっとしりたいこと、を項目としてあげた。②と③を書くことで、主体的に考えさせる手立てになったと思う。また③の内容に出来る限り応える形で次の活動の内容を調整していったことも、書く動機付けになったのではないかと考える。

今後は、言葉を介さないコミュニケーションとして、モンゴルで撮影した映像を使った音楽の授業や、モンゴルの学校での遊びの紹介を考えている。もちろん外国語の学習は重要なことであるが、小学校1年生の段階ではそれ以上に表情や身体・五感を使った関わりの楽しさに焦点を当てながら、次の活動を計画していきたい。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

- 『スーホの白い馬』  
大塚勇三 福音館書店 1967
- 『From Head To Toe』  
Eric Carle・HarperCollins 1999
- 『地球の歩き方 モンゴル』  
ダイヤモンド・ビッグ社 2009
- 『旅の指差し会話帳 モンゴル』  
川越有希子 情報センター出版局 2001
- 『十二支のお節調理』  
川端誠 BL 出版 1999
- 『ひろがることば しょうがくこくご1下』  
木下順二・今西祐行ほか 39名 教育出版 2005

# みんな友達 みんな仲間 世界に輪を広げよう ～みんな違って みんないい?～



Mongolia

平澤 由美子

埼玉県

加須市立加須南小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：総合的な学習の時間
- 時間数：8時間
- 対象：小学3年生
- 対象人数：28名

## 【1】授業実践のテーマ・目的

みんな友達 みんな仲間 世界に輪を広げよう ～モンゴルと日本 みんな違って みんないい?～

- ・モンゴルの自然や文化について知り、興味関心を持たせる。
- ・モンゴルの生活と自分たちの生活を比較し、共通点や相違点を考えさせる。
- ・モンゴルの生活と自分たちの生活を比較し、それぞれの文化のよさや互いを認め合うことの大切さに気づく。

## 【2】授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【モンゴルってどんな国だろう】 ・モンゴルについて想像を広げ、自然や文化に興味関心を持つ。	①世界地図でモンゴルの位置を確認する。 ②草原の写真を見て、モンゴルを想像する。 ③ボルガンの写真を見て、モンゴルを想像する。 ④ウランバートルの写真を見て、モンゴルを想像する。 ⑤「モンゴルの物?日本の物?」パズルをする。 ⑥モンゴルについて知りたいことを考える。	・世界地図 ・アルタンボラクの写真 ・ボルガンの写真 ・ウランバートルの写真 ・モンゴルパズル ・ワークシート
2	【モンゴルの町と日本の町】 ・ウランバートルは、日本と似ている所が多いことに気づく。	①モンゴルの町クイズをする。 ②ウランバートルのスライドを見る。 ③違うけれど、似ているということに気づく。	・モンゴルクイズ ・スライド
3	【モンゴルの家と日本の家】 ・ゲルでは、日本と似ているものを使って人々が暮らしていることに気づく。	①1枚のゲルの写真から中の様子を想像する。 ②ゲルクイズをする。 ③ゲルでの生活の様子のスライドを見る。 ④違うけれど、似ているということに気づく。	・ゲルの写真 ・ゲルクイズ ・ゲルの置物 ・スライド
4	【違っていいのかな?パート1】 ・自分たちの生活を振り返り、違いを互いに認め合って生活していくことの大切さに気づく。	①カレーの具材をグループで考える。 ②一人一人の家庭のカレーの具材を考え、紹介する。 ③教師の作ったカレーを試食する。 ④話し合いを通して違いを認め合う大切さに気づく。 ⑤クラスでも違っていいことはどんなことか考える。	・画用紙 ・カレー
5			
6	【違っていいのかな?パート2】 ・モンゴルの子供が置かれている現状を理解する。 ・孤児が生まれる連鎖を食い止めるための国際協力の必要性に気づく。	①2枚の子どもの写真を見て、生活環境を想像する。 ②孤児が生まれる仕組みを考える。 ③違いの違いを考える。 ④孤児が生まれる連鎖を食い止める方法を話し合う。 ⑤支援することの大切さを知る。 ⑥自分たちにできることを考える。	・2枚の写真 ・貧困カード ・ワークシート
7	【モンゴルへ Let's go!!】 ・モンゴルを身近に感じる。	「南小地域いきいきふれあいプラザ」での実施 ①モンゴルの紹介や体験コーナーに参加する。 ②モンゴルへ行った方からお話を聞く。	・紹介パネル ・体験コーナー
8			

〔3〕 授業の詳細

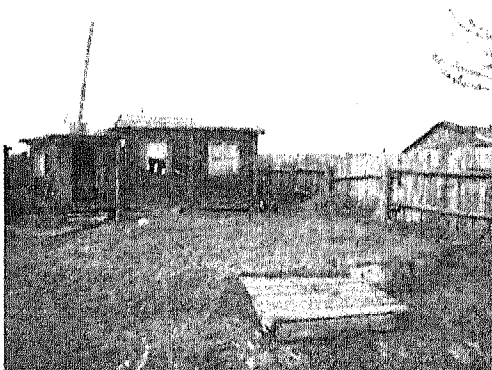
1 時限目：【モンゴルってどんな国だろう】

はじめに、世界地図を使ってモンゴルの場所を確認した。日本からそれほど離れていないこのモンゴルという国は、いったいどんな国なのか想像させ、モンゴルに興味を持たせた。アルタンボラクやボルガンの写真を順に見せると、やっぱり想像していた通りモンゴルは「何もない国・貧しい国だった」という反応が見られた。しかし、ウランバートルの写真を見せた時、自分たちのイメージしていたモンゴルと違い、いったいモンゴルはどんな国なのか、「もっと知りたい」という反応を見せた児童が多かった。

その後に行ったモンゴルパズルやモンゴルのスライドを見ることで少しずつモンゴルの様子が見つめたようであった。すると、さらに深く興味がわいたようで、「町にはどんなお店があるのか」、「どんな家に住んでいるのか」など、様々な疑問がわいてきた。そこで、2 時限目と 3 時限目は町の様子やモンゴルの伝統的な生活様式であるゲルでの生活について学習することに決めた。



アルタンボラグ



ボルガン



ウランバートル

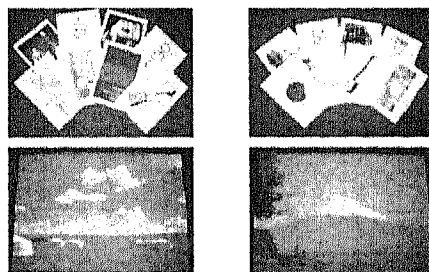
モンゴルの物と日本の物

クイズ① AとBのどちらがモンゴルの物でしょう？

① A АИҮЭО B あいうえお	② A こんにちは B サン パー
③ A B	④ A B
⑤ A B	⑥ A B
⑦ A B	⑧ A B

モンゴルパズル

1. 16 枚のカードを混ぜ合わせる。
  2. モンゴルカードと日本カードに分ける。
  3. 裏返してそれぞれ1枚の絵を完成させる。
- \* 分け方が合っていれば絵が完成します。



\* 2 時限目から 8 時限目はモンゴルを探検しているという設定で授業を進めた。

\* 町の様子やゲルの様子のスライドとは別に、授業に沿ったスライドを使いながら進めて行った。

2時限目：【モンゴルの町と日本の町】

1. モンゴルの四季について知る。

○さあ、みなさんはこれからモンゴル探検に出かけます。日本からモンゴルへは、飛行機で約5時間。あっという間に、首都ウランバートルに到着です。

○モンゴルは、ただ今冬です。ちょうど、11月から4月がモンゴルの冬になります。寒いときには、 $-38.6^{\circ}\text{C}$ にもなります。シャボン玉が凍ってしまいそうなほどです。モンゴルにも四季があります。でも、日本とは、ずれています。

○5、6月は、春。突然寒くなったり、ふぶきや強風、砂嵐がふきあれるほど不安定。日本の春のようなのかな季節ではありません。

○7、8月は、夏。 $34.5^{\circ}\text{C}$ 前後ですが、日かげに入ると涼しく、快適です。朝はコートを着て、昼はTシャツになり、夜にはまたコートを着るほど気温の差が大きいです。

○9、10月は、秋。でも、気温は急激に下がり、いきなり $0^{\circ}\text{C}$ 近くなり、長い冬に近づきます。

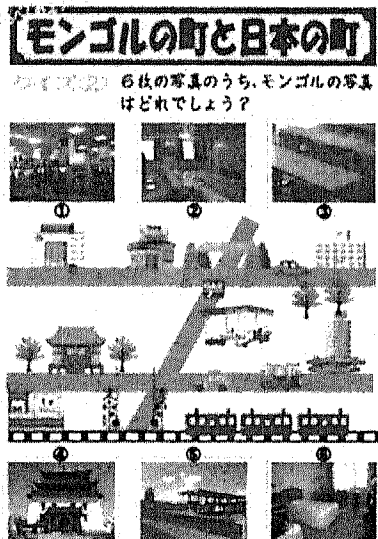
2. モンゴルの町クイズをやる。

「モンゴルの町と日本の町」を見せる。

○どの写真がモンゴルの写真でしょうか？探してみましょう。

実は、③以外の写真は全部モンゴルの様子なのです。

資料：1

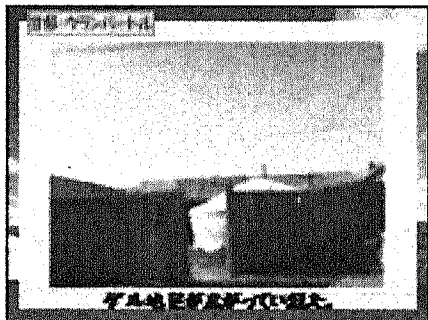
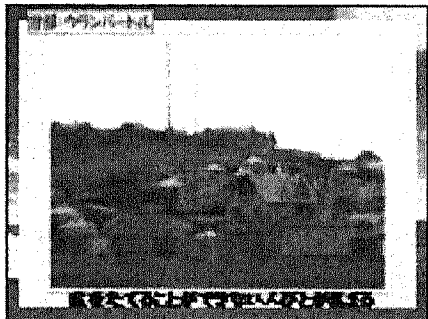


3. スライドをみる。

首都ウランバートルのスライドを見せる。

○日本と同じような所もたくさんありますね。

資料：2



ウランバートルのスライド (一部)

#### 4. 次の活動へ

○せっかく、モンゴルへ来たなら次にみなさんはどこへ行きたいですか？

そうですね。やっぱり、大草原での生活が気になりますよね。

では、次の時間にちょっと、のぞいてみましょう。

##### 児童の反応

子どもたちは、6枚の写真に興味深そうに見ていた。全ての写真が日本に見えるという児童も少なくなかった。

正解のスライドを見せたあとの感想では、モンゴルも日本も似ていて見分けがつかなかったという意見が多かった。特に、デパートや学校、ホテルは日本みたいだった。実際に行ってみたくなくなったという感想が多かった。

### 3時限目：【モンゴルの家と日本の家】

#### 1. ゲルについて知る。

○さあ、ウランバートルから2時間「アルタンボラク」という町に着きました。ここは、大草原が広がる自然豊かなところです。ところどころにゲルが見えますね。

○みなさんは、遊牧民の住む家「ゲル」を知っていますか？「ゲル」はモンゴル語で家という意味です。遊牧民は、大草原を移動して家畜を飼い生活をしています。だから、組み立て・分解が可能です。大人二人で2～3時間で組み立てることができ、分解するとすべて荷車1台にのせられる移動式の家に住んでいます。

○遊牧民たちは、季節によって住む場所を変えます。夏は、草のたくさんある場所へ。冬は、寒さが和らぐ山の南斜面へ。数百メートル、時には数百キロメートル移動します。大草原の中であってもなんとなく住所があるそうです。きちんと手紙も届きます。不思議ですね。

○さて、ゲルではどんな生活をしているのでしょうか。

#### 2. ゲルクイズをする。

○これは、ゲルの入り口です。この入り口を入るとどんな物が置かれているでしょうか。モンゴルの家にあると思う物と日本の家にある物に分けてみましょう。

○考えを聞いてみたいと思います。モンゴルの家にあると思う物に手を挙げてください。

○では、正解を発表します。

○ゲルの中は、思ったより広くベットやタンス、食器棚がありました。夜になると、電気をともし家族団らんの時間が始まります。明るいうちは、働きっぱなしです。テレビやラジオ、携帯電話を使っている生活も当たり前のようなものでした。

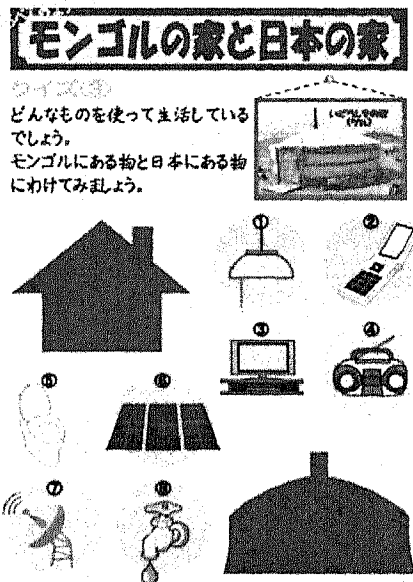
○電気は、どうしているかというと…ソーラーパネルや風力発電を使って電気を発電しているようです。また、パラボラアンテナもついているので、テレビが楽しめるのです。

○さすがに、トイレはありません。なくても困らないようなのでした。しかし、ゲルから離れたところに穴を掘って簡単な板で囲んだトイレがありました。モンゴルは、乾燥しているのにおいし気になりませんでした。

○水道もありません。その代わり川で汲んできた水をためて使っています。

衛生面では、ちょっぴり心配が…

資料：3



#### 3. 無駄のないゲル生活について知る。

○遊牧民の生活には、無駄にする物がありません。

羊をよく食べますが食べられる物は全て食べます。食べることでできない骨は、子どもたちの遊び道具になります。

○また、いろいろ工夫をこらし生活しています。ミ



ルクを温めて飲む「スーテーツアイ」、温めたミルクを泡立てて、泡の部分の固めると「ウルム」というバター、泡の下の部分を固めると「アールロール」というチーズ、ミルクの入った鍋に小さな鍋を置き、温めると「お酒」ができます。ミルクからいろいろな物を作って楽しんでいます。

#### 4. 次の活動へ

○さて、ここまでモンゴルの様子を見てきてどんなことを感じていますか。

モンゴルと日本は違うんだけど、似ているなって感じてもらえたでしょうか。

#### 児童の反応

大草原での生活には、電化製品は絶対はないという意見が多く聞かれた。しかし、ゲルでの生活の様子をスライドで見せると、「わぁ～、電気がある。テレビを見てるよ」など、驚きの声があがった。モンゴルの生活は思っていたより、発展しているという声が多く聞かれた。

#### 4・5時限目：【違っていいのかな？パート1】

##### 1. 違いについて考える。

○今日は、それぞれの班で「○班特製カレーライス」を考えてみましょう。

作るとき、みなさんだったらどんな具材を入れますか？

○なかなか意見があいせんね。では、一人一人「特製カレーライス」を紹介してください。

##### 2. カレーライスを試食する。

○それぞれの家庭でカレーライスの具材は違いますね。ここに、先生の作ったカレーライスがあります。先生の味をみなさん食べてみてください。

○先生の作ったカレーライスは、どうでしたか？

おうちの味とは違うけれど、おいしいカレーライスだったでしょ。

○カレーライスは、それぞれの家庭で味が違うと思うのです。

味が違ってもカレーライスですよ。だから、味に違いがあってもいいですよ。

○カレーライスだけでなく、私たちはお互いに認め合って生活しているのです。

##### 3. 違いを認め合おう。

○モンゴルと日本の関係についても同じことが言えます。

1. トイレ 2. コンロ 3. 水道

○モンゴルと日本は違う物を使っているのだから、比べてしまうと、日本の方がいいとかモンゴルは遅れているといった考え方をもちがちです。でも、モンゴルはモンゴルで生活しやすいように考えて生活しているわけです。一概にどちらの生活がいいとは言えません。

○それぞれに違いがあってもいいわけです。だから、私たちが隣の家の生活を認め合い理解し合っているように、海を越えた国々も認め合い理解することが大切です。



トイレ



コンロ



水がめ

#### 4. 次の活動へ

○本当に全ての違いを認め合い、理解することだけが大切なのでしょうか。

##### 児童の反応

子どもたちは、グループでカレーライス of 具材を考えた時、様々な意見が出て1つの意見にまとめるのに苦労していた。一人一人でカレーライスを考えさせてもいろいろなカレーライスがみられ、同じ物はほとんどなかった。教師のカレーを食べた時には、「家のカレーと違う。けど、おいしいね」と言いながら食べていた。

子どもたちは、これらの違いについて意識したことはなかったようだが、カレーライスを考えることで自然に違いを認め合って生活していることに気づいたようである。そして、違いを認め合って生活することの大切さに気づいたようである。

#### 6時限目：【違っていいのかな？パート2】

##### 1. 2枚の写真を比べる。笑顔の裏の孤独をさぐる。

○この2枚の子どもの写真を見てください。これは、モンゴルの子どもの写真です。かわいいですね。日本人となんとなく似ていますね。

○この子どもたちは、どんな生活環境だと思いますか。

1枚目の写真は、孤児院の子どもです。2枚目の写真は、ストリートチルドレンです。

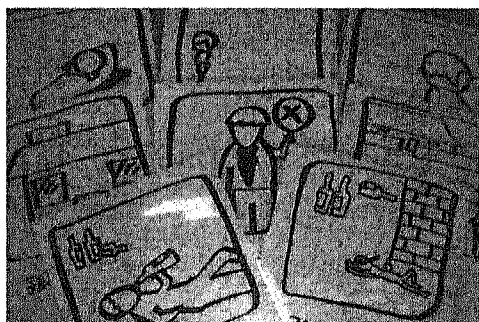
○どちらも、孤児なのです。こんなに、かわいらしく素敵な笑顔を見せてくれる子どもたちですが、実は、その笑顔の裏には複雑な生活環境をかかえています。

##### 2. 孤児が生まれるしくみを考える。

○どうして、このような孤児が生まれてしまうのでしょうか。

○8枚のカードを配ります。貧困の連鎖について一緒に考えてみましょう。

○他のグループの考えを聞いてみましょう。



貧困カード

##### 3. 違いの違いを考える。

○モンゴルには、住む場所がない、ご飯が食べられない、学校に行けない子どもたちがいます。違いを認め合うことは大切だということをお話ししましたが、この子どもたちも違ってもしょうがないと認めてしまっているのでしょうか。

○違いを認め合うことは大切ですが、認めてはならない違いもあります。

そんな時は、支援をすることが大切です。

##### 4. 孤児が生まれる連鎖を食い止める方法を話し合う。

○どの部分に支援の手を差し伸べたら、この状況が改善されると思いますか。

グループで話し合ってみましょう。

○グループの考えを発表してください。

##### 5. まとめ

○モンゴルでは、孤児院での職業訓練に力を入れ、孤児院を卒業してから働いていくことができ、再び、路上生活に戻らないようにしているようです。

○私たちにできることは何でしょうね。

支援することは大切ですが、支援する際には相手の立場に立った支援が大切です。そのために、支援される側の話を聞くことがとても大切になってきます。

##### 児童の反応

3年生にとっては、とても高度な内容だったので、一緒に考えながら進めていった。全てを理解することは難しかったようだ。しかし、同じ子どもなのに世界にはいろいろな境遇にある子がいることは伝わったようであった。

これからは、「食べ物を大切にしたい。」や「学校で一生懸命勉強したい。」といった感想を持つ子どももいた。また、困っている人がいたら助けてあげられる優しさを持ちたいという思いをもてた子どももいた。

**マンホールチルドレンについて**

マンホールチルドレンとは、保護者や家族のいない、または虐待を受けている子どもを指す。彼らは社会的に孤立し、貧困や病気の中で生活している。この子どもたちを支援するために、NPOやボランティアが活動している。彼らの生活環境を改善し、健全な成長を支援することが私たちの使命である。

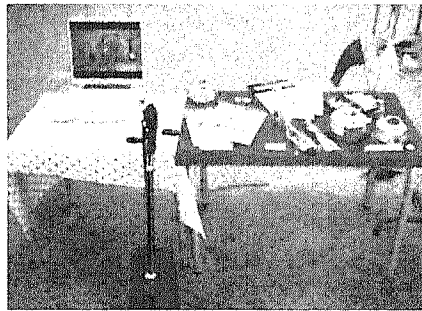


**「ごまっていたら笑えよう!!」**

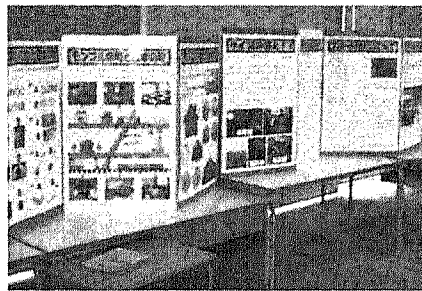
モンゴルの伝統的な遊びである「ごま」について学びました。ごまは、昔ながらの遊び道具で、子どもたちに人気があります。また、ごまの油は、料理にも使われます。この遊びを通じて、モンゴルの文化や生活習慣を知ることができました。



モンゴルの伝統的な遊びである「ごま」について学びました。ごまは、昔ながらの遊び道具で、子どもたちに人気があります。また、ごまの油は、料理にも使われます。この遊びを通じて、モンゴルの文化や生活習慣を知ることができました。



モンゴルグッズ



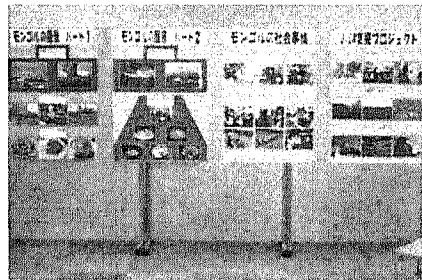
紹介パネル

**7・8時限目：【モンゴルへ Let's go !!】**

本校の教育活動の実践の場である南小地域いきいきふれあいプラザにおいてモンゴルコーナーを設置した。全校児童を始め、保護者や地域の方々にもモンゴルの様子を紹介した。



モンゴルクイズ



写真集



モンゴルグッズ

**【モンゴルグッズ】**

- ・馬頭琴（映像付き）
- ・教科書、問題集
- ・ゲルの置物 等

**【写真集】**

- ・ウランバートルの風景
- ・アルタンボラクの風景
- ・マンホールチルドレン
- ・JICA プロジェクト

**(4) 授業実践を終えて**

3年生を対象に授業を行うため、最後まで興味をもって授業に臨めるように内容を組み立てた。モンゴル探検をしようという大きなテーマで授業を進め、全ての授業を一連の流れにのせて行ったことで、子どもたちは楽しみながら授業に取り組めていたのではないかと感じた。

また、モンゴル探検の世界へと引き込ませる手立てとしてスライドを効果的に使いイメージを持たせやすくしたことや実物を用意したことは、より興味関心を高めることができた。

最後に行った南小地域いきいきふれあいプラザでは、クラスの子どもたちだけでなく、全校児童をはじめ、地域や保護者の方々にもモンゴルの現状について伝えられたのではないかと感じた。

今回の取り組みを自分自身の国際理解教育のスタートとし、さらに視野を広め今後も取り組んでいきたい。